

北京五輪を目指して 中山景子選手 壮行会



元気に育って欲しい

前田義見さん ワラ草履を寄贈

7月9日、神子在住の前田義見さん（77歳）が、役場本庁を訪れ、手作りの餅ふみ用ワラ草履12足を寄贈されました。

ワラ草履は、かけ干したワラを丁寧に手で編んでいき、1足作るのに40分ほどかかるそうです。

ワラ草履の寄贈は、旧鶴田町のころから行っています。今回、本庁及び薩摩総合支所でも出生届のあった赤ちゃんに渡して欲しいと寄贈されました。

前田さんは「地域に生まれた赤ちゃんが元気に育って欲しいと願いを込めて作りました」と話されました。



手作りワラ草履を持って来庁された前田義見さん

7月13日、カヌー・スラローム競技で北京五輪を目指す中山景子選手（第一工大4年・広瀬在住）の壮行会が町役場で行われました。

中山選手は、9月にブラジルで開催される北京五輪予選兼ブラジル世界選手権大会で五輪出場権の獲得を目指します。

地元後援会の新屋幸治副会長は「日々、轟之瀬で練習に励んでいる中山選手の姿は、地域の人たちへ夢と勇気を与えてくれます。卓抜した技術と精神力を結集して頑張ってください」と激励しました。

中山選手は「ブラジルは冬ですので、体調管理をしっかりとって、出場権を得られるよう全力で頑張りたい」と話されました。

万が一に備えて 町内一斉自主防災訓練



虎居地区公民館へ集団避難を行う虎居馬場公民会

7月1日、町内一斉防災訓練が各公民会などの主導で行われました。

当日は、町内一斉に避難勧告が発令されたとの想定で訓練が行われ、町内の各公民会がそれぞれ集団避難訓練や初期消火訓練などを行いました。

虎居馬場公民会では、午前7時30分の避難勧告発令に合わせ、避難所への集団避難を行い、新たに設置された避難所の確認や公民会防災組織の役割分担の確認などが行われました。

中央公民会では、集団避難訓練を行ったあと、独居老人の確認などが行われました。